

デジタルサイネージ ジャパン 2013 出展製品のご案内

今回の出展のキーワードは、

“1台によるシステム完成” “未来系の高画質、高精細による映像提供”

「皆様のご来場をブースにて心からお待ちしております。」

メディアインテグレータ

MI-2100



“周辺機器を大幅に低減”

入力時にI/F変換、FS対応、SC対応を行い、出力時にI/F変換、SC対応により出力します。今まで必要であった周辺機材が不要となり、実装スペース、ラック内配線、消費電力が格段に少なくなります

- 入出力総計で68チャンネルのデジタルマトリックススイッチャ
- 入力はDVI(HDCP対応)、3G/HD/-SDI、VGA/コンポジット、コンポジットから選択
- 最大解像度 2048×1200 まで対応
- デジタルやアナログ音声に対応
- 入力映像プレビューが可能

4K 対応液晶モニタ

DM-3409 DM-34132

NEW



“綺麗をそのままに表現”

没入感を感じることが出来、あたかもその場所にいるような擬似体験が得られます。

- 解像度はフルハイビジョン 1920×1080 の4倍にあたる 3840×2160
- 10bit を超える階調表現が可能
- 対応インターフェース
- DM-3409 は、3G-SDI に対応
- DM-34132 は、DVI-D、デュアル DVI、及び 3G-/HD-SDI に対応
- マルチカラースペース対応 (YPBPR、RGB、XYZ)
- ユニフォーミティ回路搭載で液晶パネルの輝度ムラを低減

4K ポータブル SSD レコーダ

HR-7510

NEW



“キヤノン社製 CINEMA EOS C500 に対応”

非圧縮収録・リアルタイム RAW 現像で 4K モニタリングを実現。

- 4K×2K RAW 60p / 4K×1K Half RAW 120p
- 2K RGB4:4:4 12bit 60p / 2K YCBCR 4:2:2 120p
- リアルタイム RAW 現像
- 撮影中の映像をリアルタイム RAW 現像でモニタリングできます。
- データ転送
- ファイルベースワークフローで最も気になるデータ転送を高速化しました。

4K SSD ビデオレコーダ

HR-7512-A

8K
4K



“4台同期運転で8Kに対応”

簡単録画、簡単再生、短時間表示、を提供します

- ストレージデバイスとして SSD (Solid State Drive) を採用
- フルスペック 4K 映像信号を非圧縮で録画・再生が可能
- eSATA ボードで PC と接続し、ファイルでの映像読み出し・書き込みが可能
- 電源起動後 10 秒以内で再生が可能

4K フレームメモリボード

GG-167-4K

NEW



“動画映像出力、テロップ等、可能性を広げる”

PCI Express 2.0 規格 ×16 (エレクトリカル ×8) 対応による高速転送

- PCI Express 規格 16 レーンスロット対応に高速データ転送
- 3840/4096×2160 60/59.94p の映像出力
- キー信号出力、HD/3G-SDI×4 系統出力
- SDI 信号の映像のリアルタイム取込 / 送出
- ※リアルタイム取込 / 送出は、ストレージ機器の速度に依存します

SDI→HDMI/DP コンバータ

SD-7067

NEW



“究極な信号変換コンバータ”

4 系統の SDI 信号 (3G/Dual/HD-SDI) と HDMI を SDI 信号 4 系統または DisplayPort 2 に変換して出力する装置です

- HDMI 信号出力対応 (オプション)
- カラーコレクション機能 (GBR ゲイン・オフセット・コントラスト / ブライテネス・色温度)、マーカー多重機能、音声ヘッドフォン出力、拡大表示機能
- 出カクック / フォーマットは入力信号および Fs より選択 (SDI 出力のみ)